

# 地域の会 10年の記録



柏崎刈羽原子力発電所の透明性を確保する地域の会



## 目 的

柏崎刈羽地域では、現に存在する原子力発電所と対峙して生活せざるを得ません。それが事故無く稼動することは、個々の考え・主張の如何によらず、住民の最低かつ共通の思いです。

「地域の会」では、発電所そのものの賛否はひとまず置いて、安全運転に係る事業者や行政当局の必要にして十分な情報提供に基づき、発電所の安全について状況を確認し、地域住民の素朴な視線による監視活動を行うとともに、必要な提言を行うことを目的に、平成15年5月に発足、設置趣旨に沿った様々な活動を行っています。



## も く じ

P 2	会長あいさつ	P18	経緯6年目
P 3	県知事あいさつ・市長あいさつ	P20	経緯7年目
P 4	村長あいさつ・規制庁あいさつ	P22	経緯8年目
P 5	エネ庁あいさつ・東電あいさつ	P24	経緯9年目
P 6	10周年事業「公開勉強会」	P26	経緯10年目
P 8	経緯1年目	P28	委員よりひとこと
P10	経緯2年目	P30	設立趣旨
P12	経緯3年目	P32	提言
P14	経緯4年目	P34	名簿・会則
P16	経緯5年目	P36	編集後記

## 挨拶



### 10年を振り返って

柏崎刈羽原子力発電所の透明性を確保する地域の会  
会長 新野 良子

地域の会は、'02年東京電力の不祥事を契機に、自治体が提案者となり、表舞台に出ることのなかった多様な立場の住民と、仕事として関わるオブザーバーが直接顔を合わせ情報の透明性をもって信頼回復を目指す、ヨーロッパ型の新しいスタイルの会として、'03年春にスタートいたしました。

当初、原子力の知識も考えも様々な委員たちは、毎月顔を合わせ本音で語り合ううちに、3年目頃には何とか会話ができるようになっていきました。

そして、次第に委員自ら会の運営を担い、情報誌「視点」の編集も手がける事となり、自治体や事務局の方々に見守られながら、自主運営のスタイルを定着させてきました。

初期の感情の時代を皆が乗り越え、手探りながら会の形を一步步築き、数年後には建設的議論も可能かと思われた頃、この地は二度の震災、水害、雪害と立て続けに大きな災害に見舞われました。

なかでも、'07年夏の中越沖地震を契機に、原子力発電所の複合的災害を感じずにはいられないほどの体験を、他の立地に先駆けて味わうこととなりました。

直後から、オブザーバーの方々や議論を重ね、一応の理解が得られたかに見えた矢先、'11年東日本大震災が発災いたしました。

見え始めた理解の姿は、まだ実っておらずこれまで議論されてきた様々な課題や懸念が一挙に現実のこととして、福島の人々に降りかかり、今も苦しませ続けています。

発災直後、臨時会を招集しこれまでの活動を振り返り、何のための議論をしてきたのか、何の成果があったのか等、委員一同が無力感に肩を落としもしました。

しかし、考えるための基本情報を得ること、顔を合わせたコミュニケーションスタイル、継続され記録され公開された活動は、いずれは自ら考える自立した姿に、また互いの立場を尊重する対話へとつながるものと信じています。

今、10年を振り返り、またこの先を見据えても、会の目的、住民の視点を念頭に多様な考えの住民の思いを伝えることは、さらに必要とされることではないでしょうか。

継続の力は、委嘱された立場、自主運営への責任感そして何より会をとりまく人々の情熱、郷土愛から生み出されているものと思います。

そして、これからは、住民の多様な思いを企業や施策の決定の場にまでつなげ、相互の理解を深めることの重要性を多くの方々と共有し、その新たな仕組みが講じられることが望まれます。

末筆ながら、この10年、顔を合わせご指導くださいました多くの関係者の方々と、支えてくださった委員に感謝申し上げ、今後、「地域の会」が他の地域でもその時代やその風土に合ったスタイルで広がっていくことを願っています。



### 地域の会の 10周年に寄せて

新潟県知事 泉田 裕彦

「柏崎刈羽原子力発電所の透明性を確保する地域の会」が、平成15年5月の発足から、今年で10周年を迎えられましたことを心からお祝い申し上げます。

「地域の会」は、平成14年8月に発覚した東京電力の不祥事を受け、原子力発電所の情報公開を徹底し、透明性を確保するための新たな取り組みの一つとして発足しました。

様々な立場の住民の方々が一堂に会して議論を重ね、事業者や国、そして我々自治体の活動状況等を確認し、住民目線で提案を行うという、全国に例のない会と伺っております。

この10年間においては、東京電力のデータ改ざんや中越沖地震、福島第一原子力発電所事故等がありましたが、柏崎刈羽原子力発電所での事故を防ぐことを共通の思いとして、監視や提言等の活動を続けてこられたこの会の重要性を、改めて感じております。

毎月の定例会や発電所視察等、これまで精力的な活動を行ってこられた関係者の皆様のご努力に対し、改めて心から敬意を表します。

「地域の会」の活動が、柏崎刈羽原子力発電所の安全確保に、今後も大きく寄与していくことを期待しております。

おわりに、「地域の会」の益々のご発展と、関係者の皆様のご健勝を祈念しまして、お祝いの言葉といたします。



### 更なる飛躍に 期待をこめて

柏崎市長 会田 洋

「地域の会」が発足から10周年の節目を迎えられましたことを、心からお慶び申し上げます。

平成15年の発足以来、柏崎刈羽原子力発電所の安全性・透明性を確保することを目的として、委員の皆様が住民としてのさまざまな視点から、事業者である東京電力の取組みや国及び関係自治体の活動状況等を継続して確認しながら立地地域の生きた声を直接投げ掛ける場として大きな役割を果たしてこられました。

その功績は言うに及びませんが、リスクコミュニケーションの場として、また、原子力分野での魁として各方面から高い評価を戴いております。歴代の委員の皆様をはじめ関係者の皆様のご尽力に深く敬意を表する次第です。

発電所立地自治体である当市は、安全性確保の諸施策を推進することは何ものにも優る緊急事であると考えております。言うまでもなく原子力施設の安全対策は国の責任において積極的施策と実施がなされるべきものではありませんが、住民の皆様が抱く素朴な疑問や懸念、不安に対して、真摯に、且つ十二分に対応していくことも不可欠であると考えます。

福島第一原子力発電所の事故以降、原子力政策に対する不信感や混沌とするエネルギー政策の方向性など、柏崎刈羽原子力発電所を取り巻く環境は大きく変貌しています。このような動きの中、住民視点からのボトムアップに取り組む「地域の会」の存在価値は大きくなるばかりです。今後もその精力的な活動に大きな期待を寄せると共に更なる飛躍を祈念いたします。



## 語り合うことの価値

刈羽村長 品田 宏夫

10周年を祝うとともに様々な立場で大勢の皆さんが議論に参加されてきた歴史を重く受け止めます。よくこの節目を迎えられました。

会をリードしてこられた皆さんに敬意と感謝を捧げます。そして参加された全ての皆さんに対話や議論に価値があるということが共有されてきたことを大変うれしく思います。

原子力利用というテーマは賛成・反対という不毛の対立に長くさらされてきました。

議論は社会形成に必須のもの、決断に至るプロセスに欠かせません。論点で主張が対立することは歓迎すべきですがこの対立を不毛と評するのは論点がかみ合っていないと思うからです。賛成主張は社会に必要・不要論を反対主張は危険・安全論を論点として同じテーブルで議論しています。かみ合っていない。二つの理論軸は接していなければなりませんし現実には離れていません。

「地域の会」は安全論議に軸足を置いていると承知しています。地域社会との接点の作り方が難しいとの声を時折耳にしますが前述の二軸を近づけることで課題解決できるのではと想像し期待もしているところです。設立目的にはそんな想いもありました。

広く社会を見渡せばそれが簡単でないことは想像がつきます。10年という歳月の価値は少なくとも語り合いは続けるという姿勢を守り通してきたところにあるような気がします。

貴会はこの国に希な組織です。先達はいません。これからも開拓者精神で果敢な挑戦を続けていって下さい。



## 10年という節目にあたって

原子力規制庁柏崎刈羽原子力規制事務所 所長 内藤 浩行

「柏崎刈羽原子力発電所の透明性を確保する地域の会」の発足から10周年を迎えられ、ここに記録誌が発行されましたことを心からお祝い申し上げます。

原子力発電所で事故が起こらないということが、原子力発電所に対するそれぞれの立場によらない、住民にとっての最低かつ共通の思いであるとの認識の下、平成15年の「地域の会」発足以来、柏崎刈羽地域の住民目線による議論を継続されてこられたことは、委員の方々はもちろん、多くの関係者のご尽力とご支援の賜と敬意を表します。

原子力規制庁は2011年3月11日に発生した東京電力福島第一原子力発電所事故の教訓に学び、二度とこのような事故を起こさないために設置されました。原子力規制組織に対する信頼回復を図っていくためには、意思決定のプロセスを含め、規制にかかわる情報の開示を徹底し、運営の透明性を確保するとともに、我々が科学的・技術的観点からどのように判断をしたのかについて、丁寧に説明していくことが重要と考えています。

今後も、「地域の会」において原子力規制の内容や原子力規制庁の取り組み等を説明させて頂き、原子力規制行政に対する信頼の回復に努めてまいります。引き続き、皆様からの忌憚のないご意見を頂きたくお願いいたします。

最後に、「地域の会」の益々のご活躍とご発展をご期待申し上げます。



## コミュニケーション継続の重要性

資源エネルギー庁柏崎刈羽地域担当事務所 所長 橋場 芳文

「地域の会」の創設10周年に当たり御挨拶申し上げます。

「地域の会」では、これまで原子力発電の推進、反対の垣根を越え、原発立地地域の様々な立場の方々も膝を交え、「今後の地域のために」という思いを一つにして様々な観点から議論が行われて参りました。

その活動がこの度10年目を迎えられ、新野会長様をはじめ委員の皆様、事務局の方々の長年の御尽力に感謝申し上げます。

「地域の会」の特徴としては、国内原発立地地域において、様々な立場の地元住民委員の方々と、事業者、国、自治体からなるオブザーバーが一堂に会する唯一の集まりであるとともに、各者を交えた議論を通して参加者の理解促進が図られているものと思います。

私どもとしても、福島第一原子力発電所事故の教訓を踏まえ、立地地域の方々をはじめ関係の方々との広聴・広報の取り組みの重要性についてあらためて痛感しているところであります。

これからも「地域の会」においては、国のエネルギー、原子力政策の方針や取り組み等の情報について、分かりやすい説明を行って参りたいと思いますので、忌憚のない御意見、御要望を頂ければと思います。

最後に「地域の会」の今後の益々のご活躍とご発展を御期待申し上げます。



## 透明性のある発電所を目指して

東京電力(株)柏崎刈羽原子力発電所 所長 横村 忠幸

福島の事故では福島県のみならずもとより、新潟県のみならず、そして広く社会のみならず大変なご心配とご迷惑をおかけしており、誠に申し訳ございません。改めて心よりお詫び申し上げます。

現在、発電所では「二度と事故は起こさない」という強い決意のもと、これまで進めてまいりました安全対策を着実に進めるとともに、発電所の安全性を更に向上し、地元のみならず信頼される「安全で災害に強い原子力発電所」となりますよう、所員一同ならびに協力企業のみならずのご協力をいただきながら全力で取り組んでいるところです。

このたび、平成14年の当社不祥事を契機として設立された「柏崎刈羽原子力発電所の透明性を確保する地域の会」が10周年を迎えられました。

委員のみならずの熱心な活動により、定例会は120回を超え、発電所に関すること、当社事業に関することについてご議論いただき、立地地域である柏崎刈羽地区の住民の代表として安全の確保を最優先に活動されていることに心から敬意を表します。

今後も委員のみならずの活発なご議論や当社に対するご意見等を真摯に受け止め、地域のみならずの視点に立った透明性のある発電所となるよう努めてまいります。

引き続きみなさまからの忌憚のないご意見、ご指導のほど、よろしくお願いたします。

## 柏崎刈羽原子力発電所の透明性を確保する地域の会 10周年事業 公開勉強会を開催しました

平成 25 年 11 月 6 日、柏崎市産業文化会館において 10 周年事業「公開勉強会」を開催しました。  
基調講演やパネルディスカッションを通じて、対話のあり方などを意見交換しました。

### 公開勉強会の目的

「地域の会」は、平成15年の発足以来、10年にわたり活動してきました。

10年の節目にあたり、これまでの活動を客観的に振り返り、「地域の会」の活動を見つめ直すとともに、福島原発災害を通じ、様々な課題が浮き彫りになる中で、原子力発電所に対する多様な考えを持つ住民、そして、国や地方自治体が、どのように相互理解を深めていくべきか、様々な視点からリスクコミュニケーションのあり方を考えることを目的に開催しました。

### 基調講演・パネルディスカッション

テーマ：原子力に向かい合う対話の形をさがして ～「地域の会」の今後を見すえて～

基調講演講師・コーディネーター：東北大学名誉教授、(株)テムス研究所所長 北村 正晴 氏

パネリスト：新潟県防災局次長 熊倉 健 氏

「地域の会」副会長 佐藤 正幸 氏

「地域の会」副会長 高橋 武 氏



15.6.1 発電所7号機視察



17.9.16 六ヶ所村視察



17.10.13 原子力防災訓練事前訓練視察



18.10.9 発電所7号機視察



19.8.1 中越沖地震関連 発電所状況確認



20.2.24 県外視察（福島）



20.10.13 発電所視察（ベータ断層視察）



24.7.18 福島視察研修

第1期

2003年  
～  
2004年

2002年東京電力(株)の不正問題発覚、3回の準備会を経て原発の賛成、反対、中立の立場の委員24名で発足。

2003年4月予備会議、5月第1回定例会を開催。会長は決められず、しばらくは、柏崎市の品田市民生活部長が、進行役となる。2004年3月に会長に新野良子、副会長に今井長司を選出。

経緯【設立準備会・第1期】

年月日	会議・視察名	内容
平成14年 8月29日 (2002)	東京電力の不正事件 発覚	原子力発電所における自主点検作業記録の不正等の問題について公表
12月19日	第1回準備会	準備会設立趣旨、会の趣旨・目的、委員の構成・任期等説明
平成15年 1月27日 (2003)	第2回準備会	行政からの提案(新潟県、柏崎市、刈羽村、西山町)
2月13日	第3回準備会	会則について
4月18日	予備会議	新委員による趣旨の確認、今後の進め方
5月12日	第1回定例会 (第1回情報共有会議)	委員委嘱状授与、不正問題の経過及び発電所の取り組み
6月 1日・2日	発電所7号機視察 (第1回発電所視察)	漏えい率検査、シュラウド及び再循環系配管
6月 9日	第2回定例会	発電所視察報告、首都圏の電力需給問題
7月 2日	第3回定例会	4号機運転再開について
7月17日・31日	第1回臨時会	再循環系配管の点検データ確認(発電所視察)
8月 5日	第4回定例会	品質保証制度について
9月 3日	第5回定例会	維持基準導入の考え方
10月 2日	第6回定例会	特認申請とシュラウドについて
11月 6日	第7回定例会 (第2回情報共有会議)	異物混入問題、市長プレゼン:規制の在り方
12月 3日	第8回定例会	委員意見交換:異物混入問題・規制の在り方、異物混入問題について意見のとりまとめを行う
12月14日	発電所1号機視察 (第2回発電所視察)	物品管理状況、1号機原子炉建屋・ドライウェル・サブプレッションチェンバー・大物搬入口・廃棄物集積所
12月14日	意見書提出	保安院・東京電力に対して～原子炉圧力抑制室内の異物問題に対する意見のまとめ～
平成16年 1月15日 (2004)	第9回定例会	委員意見交換:規制の在り方
2月13日	第10回定例会	保安院との意見交換:山下首席統括安全審査官
3月12日・13日	東海村視察研修	原子燃料工業、原研、原子力防災意見交換
3月15日	第11回定例会	成瀬統括安全審査官説明「発電所における管理区域からの物品搬出状況について」委員意見交換、会長・副会長決定
4月 7日	第12回定例会	1・3号機運転再開についての意見交換

発電所を巡る動き

- 2003/ 3/29 柏崎刈羽原子力発電所全号機停止
- 2003/12/ 1 新潟・福島・福井県知事、国に対し原子力安全規制体制の在り方の検討等を要請
- 2004/ 2/12 柏崎市長・議長・刈羽村長が、国・東京電力へ不正事件等の総括と再発防止のための意見を提出
- 2004/ 2/19 東京電力が、柏崎市長・刈羽村長に対する不祥事の再発防止と再生への取り組みを提出



14.12.19 準備会



15.4.18 予備会



15.5.12 第1回定例会(情報共有会議)



15.6.1 発電所7号機視察



15.6.28 第1回広報、運営委員会



15.7.17 第1回臨時会

第 1 期

2004年  
2005年

- 6月 2日……原子力安全・保安院、東京電力(株)に対して一年間を総括しての提言を行う。
- 6月28日……2号機原子炉が起動し、全号機が起動する。
- 8月19日……美浜原子力発電所事故について臨時会を開催。
- 10月23日……新潟県中越地震発生。

経緯【第1期】

年月日	会議・視察名	内 容
平成16年 5月12日 (2004)	第1回意見交換会	今後の進め方、テーマ、情報誌
6月 2日	第13回定例会	保安院・東京電力への提言・意見交換 (原子力安全・保安院 田中原子力安全広報課長／東京電力(株) 佐竹原子力本部副本部長出席)
6月 2日	提言書提出	保安院・東京電力に対して ~1年間を総括しての提言~
7月 7日	第14回定例会	防災センター等視察、原子力防災
8月 4日	第15回定例会	原子力防災、発電所地震対策
8月19日	第2回臨時会	美浜事故について
9月 1日	第16回定例会	核燃料サイクル経済性試算資料問題について: エネ庁 原子力防災対策について: 亀田和久氏
9月12日・13日	発電所4号機視察 (第3回発電所視察)	配管点検状況、原子炉建屋地階の状況
9月28日	防災訓練事前訓練視察	防災訓練事前訓練視察
10月 5日	第17回定例会	公開講演会「原子力・原発問題の歴史を展望する」: 武田徹氏
10月23日		新潟県中越地震発生
11月 5日	第18回定例会	中越地震と発電所
12月 1日	第19回定例会	地盤問題(資料公開請求)
平成17年 1月19日 (2005)	第20回定例会	今後の会のあり方について
2月 2日	第21回定例会	各オブザーバーからの総括、意見交換
3月 2日	第22回定例会	4月定例会について
4月12日	第23回定例会 (第3回情報共有会議)	2年間の総括、オブザーバーとの意見交換
4月12日	意見書提出	保安院・自治体・東京電力に対して ~二年間を振り返って~

発電所を巡る動き

- 2004/ 6/30 全号機の運転再開に伴い、新潟県知事・柏崎市長・刈羽村長が、県庁において三者会談
- 2004/ 7/ 4 経済産業大臣、柏崎刈羽原子力発電所初視察、柏崎市長・刈羽村長と会談
- 2004/10/23 17:56 新潟県中越地震発生 (M6.8) 新潟県、地震対応、連絡体制強化



16.5.12 第1回意見交換会



16.8.19 第2回臨時会



16.9.12 発電所4号機視察



16.9.28 防災訓練事前訓練視察



16.11.16 第15回運営、第16回広報委員会



17.4.12 第23回定例会(情報共有会議)

第2期

2005年  
2006年

- 8月26日……内閣府原子力委員会に対して「原子力政策大綱(案)に対する意見書検討書」を提出。
- 11月9, 10日…原子力総合防災訓練の実施。各地域、施設に分かれ視察を行う。
- 2月1日……原子力安全・保安院、自治体、東京電力(株)に対して原子力防災総合訓練を視察しての意見書を提出。

経緯【第2期】

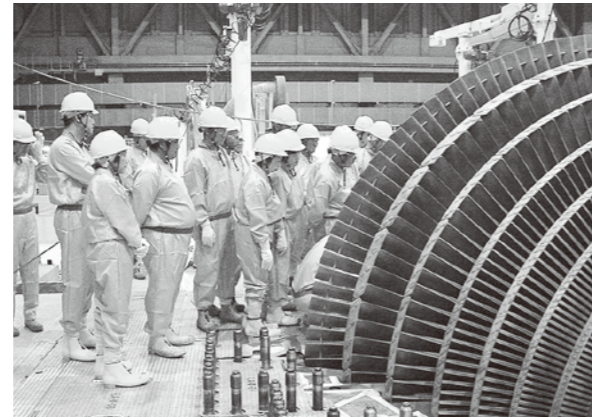
年月日	会議・視察名	内容
平成17年 5月31日 (2005)	第24回定例会	委員委嘱状授与、会の趣旨確認、役員選出、今後の会の進め方
7月 6日	第25回定例会	原子力防災センター・放射線監視センター視察、原子力防災について
8月 3日	第26回定例会	原子力防災について
8月21日-22日	発電所5号機視察 (第4回発電所視察)	原子炉建屋、格納容器内、タービン建屋
8月26日	意見書提出	原子力委員会に対して～「原子力政策大綱(案)に対する意見書」検討書
9月 7日	第27回定例会	公開勉強会：六ヶ所視察事前勉強会、核燃料サイクルの現状：講師/北大大学院教授 佐藤正知先生
9月16-17日/22-23日	六ヶ所村視察	核燃料サイクル施設
10月 5日	第28回定例会	保安院よりスクラム回数・チェルノブイリ事故、東電より5号機スクラムの件、六ヶ所村視察報告と事前勉強会を振り返って
10月13日	原子力防災訓練事前 訓練視察	オフサイトセンターにて
11月 2日	第29回定例会	質問事項の回答、原子力総合防災訓練について
11月 9日-10日	原子力総合防災訓練視察	オフサイトセンター、柏崎刈羽原子力発電所、市役所、市民プラザ、原子力広報センターにて
12月 7日	第30回定例会	手動停止回数の分析、原子力総合防災訓練感想
平成18年 1月11日 (2006)	第31回定例会	公開勉強会「放射線・放射能の基礎」について：NPO原子力防災支援センター 泉幸男先生
2月 1日	第32回定例会 (第4回情報共有会議)	オブザーバーとの意見交換、谷中課長・会田市長・品田村長・千野所長
2月 1日	意見書提出	保安院・自治体・東京電力に対して～原子力総合防災訓練を視察して～
3月 1日	第33回定例会	前回以降の動き：7号機の原子炉給水流量計ならびに復水流量計の実流量試験に関する疑義他、平成18年度視察について
3月 1日	意見書提出	新潟県に対して～新潟県国民保護計画(素案)に対する意見～
4月 5日	第34回定例会	発電所の耐震安全性について、保安院との意見交換
4月27日	電磁波測定	西山町五日市、渡辺副会長宅周辺にて測定

発電所を巡る動き

- 2005/08/22 新潟県・柏崎市・刈羽村・東京電力の四者間で、安全協定の一部改定「適切な措置に原子炉の停止を明文化」等
- 2005/11/9-10 平成17年度原子力総合防災訓練
- 2006/ 4/12 新潟県・柏崎市・刈羽村、東京電力に対し、「柏崎刈羽原子力発電所の安全運転の徹底」を要請



17.6.14 第20回運営委員会



17.8.21 発電所5号機視察



17.9.16 六ヶ所村視察



17.11.9 原子力総合防災訓練視察



18.2.1 第32回定例会(情報共有会議)



18.4.27 電磁波測定



第 2 期

2006年  
～  
2007年

6月22日……内閣府原子力安全委員会に対して、「発電用原子炉施設に関する耐震設計指針(案)」及び「原子力安全基準・指針専門部会の見解」に対する意見書を提出。

12月6日……柏崎市に「原子力の課名復活」の要望書を提出。

経緯【第2期】

年月日	会議・視察名	内容
平成18年 5月10日 (2006)	第35回定例会	電磁波測定の報告、再循環系配管の欠陥に関する報告
6月 7日	第36回定例会	原子力安全・保安院平岡首席統括安全審査官との質疑応答:原子力安全規制について
6月22日	意見書提出	内閣府原子力安全委員会に対して～「発電用原子炉施設に関する耐震設計指針(案)」及び「原子力安全基準・指針専門部会の見解」に対する意見～
7月 5日	第37回定例会	公開勉強会「地震はなぜおこるのか?」講師:東京大学名誉教授 溝上恵先生
8月 2日	第38回定例会	管理被ばく線量超過の件、3・4号機再循環系配管の取り扱い・検査制度の改善案について
9月 5日	地下探査(起震車) デモ見学	東電、原子力技能訓練センター駐車場にて
9月 6日	第39回定例会	荒浜町内会長より地区防災訓練の報告、「エネルギー政策について」エネ庁 電力・ガス事業部原子力発電立地対策・広報室長 鈴木洋一郎氏
9月29日・30日	美浜・もんじゅ視察	美浜発電所、高速増殖炉もんじゅ、広井氏講話
10月 4日	第40回定例会	美浜発電所・もんじゅ視察の感想
10月 9日・10日	発電所7号機視察 (第5回発電所視察)	放射線線量計説明、原子炉建屋、タービン建屋、環境管理棟
11月 1日	第41回定例会	前回以降の動き:放射線監視強化・原子力防災計画の見直し、耐震設計審査指針関連
12月 6日	第42回定例会	発電所における取放水温度差の補正について
12月 6日	要望書提出	柏崎市に対して～要望書(原子力の課名復活)～
平成19年 1月10日 (2007)	第43回定例会	データ改ざん関連質疑
2月 7日	第44回定例会 (第5回情報共有会議)	5年前の東電不祥事以後の、それぞれの立場における、これまでの対処と評価、及び今後の展望について(渡邊防災局長・会田市長・品田村長・千野所長)
2月15日	第3回臨時会	東京電力㈱の法定検査に関するデータ改ざんについて
3月 7日	第45回定例会	東京電力㈱、改ざん問題に関する報告について
4月 4日	第46回定例会	東京電力㈱、改ざん問題に関する報告(3/30分) について

発電所を巡る動き

- 2006/5/11 保安院、発電用原子炉施設の新耐震指針とりまとめに対する対応を公表
- 2006/6/ 2 東京電力、発電用原子炉施設に関する耐震設計審査指針の改訂を踏まえた地質調査の実施について公表
- 2006/9/ 5 東京電力、起震車を使った地下探査デモンストレーションを公開
- 2007/1/31 東京電力、法定検査に関する不正な行為やデータ処理における改ざんの事実を公表



18.9.5 地下探査(起震車)デモ見学



18.9.29 美浜・もんじゅ視察



18.10.9 発電所7号機視察



18.11.21 第40回拡大運営委員会



19.2.7 第44回定例会(情報共有会議)



19.2.15 第3回臨時会

第3期

2007年  
～  
2008年

5月9日……経済産業大臣、東京電力(株)に「検査データ改ざんに係る東電公表を受けて」要望書を提出。

7月16日……新潟県中越沖地震発生。発電所も被災し全号機停止。

経緯【第3期】

年月日	会議・視察名	内容
平成19年 5月 9日 (2007)	第47回定例会	委員委嘱状授与、役員選出、会則の変更、データ改ざんに関する報告(保安院)、地下探査の中間報告(東京電力)
5月 9日	要望書提出	経済産業大臣・東京電力社長宛(H18年11月以来、公表された東電をはじめ電力会社の原子力・水力・火力発電所に関係する不正行為を受けて)
6月 6日	第48回定例会	公開勉強会「企業体質の問題を組織の経済学から捉える」:慶応義塾大学商学部大学院商学研究科 菊澤研宗教授
6月22日	第4回臨時会	特別な保安検査の報告、検査制度について(過去・現在・これから)
7月 4日	第49回定例会	5号機再循環系配管のひびの健全性評価
7月 7日・10日	基礎講座 発電所6,7号機視察 (第6回発電所視察)	原子力発電の基礎講座 講師:北原氏 7号機原子炉建屋、中操、タービン建屋、6号機格納容器内他視察
7月16日		新潟県中越沖地震発生
8月 1日	第50回定例会	中越沖地震関連の状況報告及び質疑
8月 1日・5日	中越沖地震関連 発電所状況確認 (第7回発電所視察)	発電所敷地内、6,7号機建屋内
9月 5日	第51回定例会	地震直後の情報伝達及び対応についての報告
10月 3日	第52回定例会	原子炉4基の停止状況について
11月 7日	第53回定例会	地質調査の概要等について
11月17日	地震関連公開勉強会 (第1回)	「地震のしくみと中越沖地震の諸問題」講師:石橋克彦氏
12月 2日	第54回定例会(地震関連公開勉強会第2回)	「地震はなぜおこるのか?」講師:溝上恵氏
12月 9日・10日	中越沖地震後 発電所状況確認 (第8回発電所視察)	4,7号機建屋内他
12月13日	意見書提出	03年海底活断層再評価の公表を受けての意見書(原子力委員長、原子力安全委員長、経済産業大臣、原子力安全・保安院、資源エネルギー庁長官、東京電力社長、新潟県知事、柏崎市長、刈羽村長宛)
平成20年 1月 9日 (2008)	第55回定例会	意見書提出の経過と委員意見交換
2月 6日	第56回定例会 (第6回情報共有会議)	オブザーバーとの意見交換 「中越沖地震を受けて、今後どのように対処していくのか」(加藤審議官・鈴木室長・斎田危機管理監・会田市長・品田村長・高橋所長)
2月24日・25日	県外視察(福島)	福島第一原子力発電所・福島所在町情報会議委員との懇談
3月 2日・3日	中越沖地震関連 発電所状況確認 (第9回発電所視察)	1号機:原子炉複合建屋・原子炉建屋 屋外:土砂、水の流入箇所・β断層立坑内・地表面亀裂・防火水槽
3月 5日	第57回定例会	建屋レベルの経年変化について
3月19日	東京電力 非常災害時訓練視察	初動対応訓練、火災対応・消火訓練、広報訓練、本店要員の移動訓練
4月 9日	第58回定例会	地質・地盤調査結果とりまとめ状況について

発電所を巡る動き

2007/7/16 10:13 新潟県中越沖地震発生(M6.8)  
2007/7/17 新潟県知事・柏崎市長・刈羽村長連名で、東京電力勝保社長に対し、原子力発電所の安全性の確保について措置要求  
2008/1/31 保安院、IAEAフォローアップ調査団が柏崎刈羽原子力発電所の現地調査を実施



19.6.22 第4回臨時会



19.7.7 基礎講座、発電所6,7号機視察



19.8.1 中越沖地震関連 発電所状況確認



19.11.17 第1回地震関連公開勉強会



19.12.2 第54回定例会、第2回地震関連公開勉強会



19.12.9 中越沖地震関連 発電所状況確認

第3期

2008年  
～  
2009年

6月19～21日…IAEA、耐震安全性に関するIAEA国際ワークショップを開催。  
地域では、新潟県中越沖地震に伴う説明会、意見交換会が開催される。  
県では、「新潟県原子力発電所の安全管理に関する技術委員会」が頻繁に開催される。

経緯【第3期】

年月日	会議・視察名	内容
平成20年 5月14日 (2008)	第59回定例会	ワーキンググループの調査報告、状況等について
5月21日	第5回臨時会 (委員意見交換会)	フリーディスカッション
6月 4日	第60回定例会	「中越沖地震時に取得された地震観測データの分析及び基準地震動に係わる報告書」内容について(東電)、(保安院)
7月 2日	第61回定例会	委員所感(今の思いを伝える)
8月 6日	第62回定例会	国のワーキンググループの内容説明(保安院)、耐震補強工事の説明(東電)
9月 3日	県技術委員会小委員会委員長と地域の会による意見交換会	2つの小委員会(地震、設備)両委員長との意見交換
9月 3日	第63回定例会	前回定例会以降の動き、質疑応答
9月28・29日	県外視察(千葉・東京)	東京電力千葉火力発電所・放射線医学総合研究所・原子力安全委員会傍聴・原子力安全・保安院との意見交換
10月 1日	第64回定例会	県外視察報告及び意見交換
10月13日・14日	発電所視察(第10回発電所視察)	発電所敷地内立坑視察、配管補強・原子炉建屋屋根トラス強化工事現況確認(6・7号機)
11月 5日	第65回定例会	地盤、基準地震動に関する事実経過説明(海域・陸域震源断層、基準地震動、地殻変動について)
12月 3日	第66回定例会	設備・建物・構築物についての経過状況説明(東電) 設備・建物・構築物についての評価(保安院)、技術委員会報告(県)
平成21年 1月14日 (2009)	第67回定例会(公開勉強会)	「原子力の安全規制について」～中越沖地震を受けて～ 講師:内閣府原子力安全委員会
2月 4日	第68回定例会 (情報共有会議)	委員所感表明(今、思うこと、伝えたいこと、感想など) オブザーバー所感表明(委員発言をふまえての意見、感想など)
3月 4日	第69回定例会	全号機の状態説明(東電)、東電報告に対する評価の状況(保安院) 小委員会の現状と課題(県)
4月 8日	第70回定例会	火災に関する調査状況説明(東電)、フリーディスカッション

発電所を巡る動き

- 2008/8/11・12 保安院、柏崎刈羽原子力発電所への現地調査を実施
- 2008/12/23 新潟県・柏崎市・刈羽村、刈羽村ラピカにおいて意見交換会を開催
- 2009/ 2/ 7 新潟県知事・柏崎市長・刈羽村長が7号機運転再開問題について三者会談
- 2009/ 2/23 新潟県知事・柏崎市長・刈羽村長が7号機運転再開問題について三者会談
- 2009/ 3/11 新潟県知事・柏崎市長・刈羽村長が7号機運転再開問題について三者会談



20.5.21 第5回臨時会(委員意見交換会)



20.9.3 県技術委員会小委員会委員長と地域の会による意見交換会



20.9.28 県外視察(千葉・東京)



20.10.13 発電所視察(ボーリングコア視察)



21.1.14 第67回定例会(公開勉強会)



21.2.4 第68回定例会(情報共有会議)

第4期

2009年  
～  
2010年

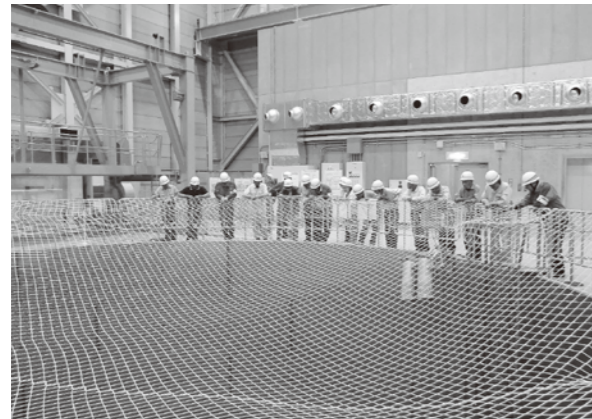
11月 8日……7号機再起動(10日発電開始)。  
2月26日……経済産業省資源エネルギー庁に対して「エネルギー基本計画」について意見書を提出。

経緯【第4期】

年月日	会議・視察名	内容
平成21年 5月13日 (2009)	第71回定例会	委員委嘱状授与、役員選出、火災に関する状況説明(東電、市消防、保安院)、起動試験に関する説明(県、東電、保安院)
6月 3日	第72回定例会	7号機起動試験の状況及び6号機の点検状況説明について(東電)
6月12日・13日	発電所視察 (第11回発電所視察)	発電所7号機(非管理区域) 建屋ギャラリー、技能訓練センター
7月 1日	第73回定例会	7号機プラント全体の機能試験の結果、6号機の進捗状況、ロッキングについて、発電所建屋のひび等についての説明(東電)、7号機及びその他の号機の点検状況(保安院)
8月 5日	第74回定例会 (第一回公開勉強会)	「身のまわりの放射線について」講師:飯本武志氏
8月26日	第6回臨時会	フリーディスカッション
9月 2日	第75回定例会	防災計画について(県)
10月 7日	第76回定例会	6号機ロッキング、電気予報の過去実績、火災対応に係る委員質問への回答(東電)
11月 4日	第77回定例会	最近の人身事故とその対策について(東電)
11月27日	エネルギー座談会2009	資源エネルギー庁主催の「エネルギー座談会2009」において意見交換
12月 2日	第78回定例会 (第二回公開勉強会)	「放射線の人体への影響について」講師:崎山比早子氏
平成22年 1月13日 (2010)	第79回定例会	原子力発電所の現状を踏まえてのディスカッション
2月 3日	第80回定例会 (情報共有会議)	委員所感表明(今、思うこと、伝えたいこと、感想など) オブザーバー所感表明(委員発言をふまえての意見、感想など)
2月26日	意見書提出	エネルギー基本計画について(資源エネルギー庁長官宛)
3月 3日	第81回定例会	燃料装荷の手順、1・5号機の現状、構内の仕事の流れについて(東電)
3月12日	東京電力非常時及び 緊急時総合演習視察	非常災害時訓練状況(緊急時対策室) 視察、免震重要棟地下1F基礎部分視察
4月 7日	第82回定例会	22年度の活動をテーマとしたディスカッション

発電所を巡る動き

- 2009/ 5/ 8 新潟県知事、7号機の運転再開を了承
- 2009/ 7/ 9 保安院、(独)原子力安全基盤機構(JNES)が「柏崎耐震安全センター」の設置を公表
- 2009/ 8/25 新潟県知事・柏崎市長・刈羽村長、6号機が運転再開することを了承
- 2009/ 9/26 7号機 漏えい燃料の特定と交換のために運転停止
- 2009/11/ 8 7号機 再起動(10日発電開始)
- 2009/12/21 柏崎市長・刈羽村長、県の技術委員会報告を受け、6・7号機の営業運転を了承
- 2009/12/22 新潟県知事、6・7号機の営業運転を了承
- 2010/ 4/12 新潟県知事・柏崎市長・刈羽村長が三者会談
- 2010/ 4/16 東京電力、新潟県・柏崎市・刈羽村に1号機運転再開を申し入れ



21.6.12 発電所視察



21.8.5 第74回定例会(第1回公開勉強会)



21.8.26 第6回臨時会



21.11.27 エネルギー座談会2009



21.12.2 第78回定例会(第2回公開勉強会)



22.3.12 東京電力非常時及び緊急時総合演習視察

第4期

2010年  
～  
2011年

3月11日……東北地方太平洋沖地震発生。東京電力福島第一発電所が原子力事故。  
3月24日……東北地方太平洋沖地震をうけて、内閣総理大臣、経済産業大臣、衆参両院議長、原子力委員会委員長、原子力安全委員会委員長、資源エネルギー庁長官、原子力安全・保安院院長、泉田裕彦新潟県知事、会田洋柏崎市長、品田宏夫刈羽村長、清水正孝東京電力(株)代表取締役社長に対して「意見書」を提出。

経緯【第4期】

年月日	会議・視察名	内容
平成22年 5月12日 (2010)	第83回定例会	1号機の状況説明、島根原子力発電所点検漏れに対する保安院の対応(保安院)、1号機に関する技術委員会の議論の状況(県)、5号機ひび貫通の状況、不適合グレードの見直しについて(東電)
6月 2日	第84回定例会	高経年化について概略説明(保安院)、高経年化に対する取組み(東電)
6月23日	第7回臨時会	会の役割について、フリーディスカッション
7月 7日	第85回定例会	1・5号機の現状報告(東電、保安院)、保安活動総合評価について(保安院)
8月 4日	第86回定例会	防災計画、避難基本計画等の概要説明(県・市・村)及び防災訓練概要説明(県)
9月 1日	第87回定例会	5号機に関する状況説明(保安院)、前回定例会の委員質問に対する回答(オブザーバー)
9月17日	平成22年度オフサイトセンター 活動訓練視察	平成22年度オフサイトセンター活動訓練2日目、図上訓練を視察
10月 6日	第88回定例会	防災に関するディスカッション(情報の出し方、どういう情報がほしいかなど)
11月 5日	平成22年度原子力防災訓練視察	平成22年度原子力防災訓練(柏崎刈羽原子力防災センター、柏崎市総合体育館ほか)を視察
11月10日	第89回定例会	5号機に関する県への要望について(市)、技術委員会の状況について(県)、原子力防災訓練を終えて意見交換
12月 1日	第90回定例会	新検査制度の概要について(保安院)、新検査制度についての取組み(東京電力)
平成23年 1月12日 (2011)	第91回定例会	委員意見交換(会の役割の認識、これまでの反省及び抱負など)
2月 2日	第92回定例会 (情報共有会議)	委員所感表明(今、思うこと、伝えたいこと、感想など) オブザーバー所感表明(委員発言をふまえての意見、感想など)
3月 2日	第93回定例会	制御棒のひび割れについての経過説明及び加振試験の内容、状況説明(東京電力)、柏崎刈羽原子力発電所の点検計画に関する調査状況について(東京電力、保安院)
3月11日		東北地方太平洋沖地震
3月23日	第8回臨時会	福島第一原子力発電所の状況、対応(東京電力、保安院)、委員所感表明
3月24日	意見書提出	福島第一原子力発電所の事故を受けて(内閣総理大臣、経済産業大臣、衆議院議長、参議院議長、原子力委員長、原子力安全委員長、資源エネルギー庁長官、原子力安全・保安院長、新潟県知事、柏崎市長、刈羽村長、東京電力社長宛)
4月 6日	第94回定例会	福島第一原子力発電所のこれまでのあらまし(東京電力、保安院) 委員意見交換

発電所を巡る動き

- 2010/ 5/21 新潟県知事・柏崎市長・刈羽村長、1号機の運転再開を了承
- 2010/ 8/31 東京電力、新潟県・柏崎市・刈羽村に5号機運転再開を申し入れ
- 2010/11/ 5 新潟県・柏崎市・刈羽村、平成22年度原子力防災訓練を実施(豪雪との複合災害を想定)
- 2010/11/17 新潟県知事・柏崎市長・刈羽村長、5号機の運転再開を了承
- 2010/11/24 原子力耐震・構造研究センター竣工(新潟工科大学)
- 2011/ 3/11 14:46 東北地方太平洋沖地震発生(M9.0) 国内観測史上最大の地震。東京電力福島第一原子力発電所が津波発生により電源装置等の重要設備が流されるなどして炉心冷却機能喪失。「原子力緊急事態宣言」発出。
- 2011/ 3/11 新潟県、福島第一原子力発電所の事故を受け、県内の放射線監視体制を強化



22.6.23 第7回臨時会



22.7.21 第92回運営委員会



22.9.17 平成22年度オフサイトセンター活動訓練視察



22.11.5 原子力防災訓練視察



23.2.2 第92回定例会(情報共有会議)



23.3.23 第8回臨時会

第5期

2011年  
〜  
2012年

- 10月 5日……第100回定例会 委員意見表明「住民の観点から過去・現在・未来を語る」開催。
- 12月 3日……IAEA国際耐震安全センター特別拠出金プロジェクト「外的事象における公衆とのコミュニケーション」に関するワークショップに参加。
- 1月25日……経済産業大臣、内閣府特命担当大臣（原子力行政）、原子力安全・保安院院長、原子力安全委員会委員長、原子力委員会委員長、資源エネルギー庁長官に対して「原子力発電所の安全・防災対策について」要望書を提出。
- 3月26日……6号機 定期検査のため停止（柏崎刈羽原子力発電所、全号機停止）

経緯【第5期】

年月日	会議・視察名	内容
平成23年 5月 11日 (2011)	第95回定例会	委員委嘱状授与、委員自己紹介、役員(会長・副会長)選出 委員意見等～今、思うこと～
6月 1日	第96回定例会	福島第一原子力発電所事故の状況について前回定例会以降の状況(東京電力)、福島第一原子力発電所事故以降のモニタリングの状況について(保安院、県)、意見交換(知りたいこと、聞きたいことなど)
6月 18日	勉強会及び発電所視察	・放射線に関する勉強会 ・環境管理棟視察、電源車等視察、建屋止水対策、防潮壁建設予定地視察など
7月 6日	第97回定例会	防災の視点から委員意見交換(発電所の視察を受けて/最近の現状を受けて)
8月 3日	第98回定例会	ストレステストの概要(保安院)、福島第一原子力発電所事故の状況について(東京電力)
9月 7日	第99回定例会	発電所周辺断層評価について(東京電力)、放射線測定結果について(東京電力、県)、意見交換
10月 5日	第100回定例会	委員意見表明～住民視点で防災の観点から過去・現在・未来を語る～
11月 2日	第101回定例会	EPZ、災害初期の情報伝達についてディスカッション
11月25日	意見交換会	地域の会のあらまし、経過、意見交換
12月 7日	第102回定例会	原子力防災指針の考え方、原子力発電所の過酷事故における対策の考え方について(県)、フリーディスカッション
平成24年 1月 11日 (2012)	第103回定例会	防災についての経過(県市村)、事故調査・検証委員会の中間報告についてディスカッション
1月25日	国へ要望書提出	原子力発電所の安全・防災対策について要望書を提出 提出先: 経済産業大臣、内閣府特命担当大臣(原子力行政)、原子力安全・保安院院長、原子力安全委員会委員長、原子力委員会委員長、資源エネルギー庁長官
2月 1日	第104回定例会 (情報共有会議)	オブザーバー所感表明(東日本大震災を受けて一年間を振り返る・今後の対応について) 委員所感表明(今、思うこと、伝えたいこと、感想など)
3月 7日	第105回定例会	ストレステストこれまでの経緯(保安院)、(東京電力)、SPEEDIに関する勉強会について知りたいこと
4月 11日	第106回定例会	ストレステストについて質疑応答、意見交換

発電所を巡る動き

- 2011/ 5/20 東京電力、福島第一原子力発電所1～4号機の廃止及び同7・8号機の増設計画中止について公表
- 2011/12/16 政府、福島第一原子力発電所の冷温停止状態を確認、事故収束を宣言
- 2012/ 3/ 5 保安院、原子力施設の事故・トラブルに対するINES(国際原子力・放射線事象評価尺度)最終評価を確定
- 2012/ 3/26 6号機 定期検査のため停止(柏崎刈羽原子力発電所、全号機停止)
- 2012/ 4/ 1 新潟県、「放射能対策課」設置



23.5.11 第95回定例会



23.6.18 勉強会及び発電所見学



23.10.5 第100回定例会



23.11.25 意見交換会



24.1.25 国へ要望書提出



24.2.1 第104回定例会(情報共有会議)

第5期

2012年  
～  
2013年

7月18日……富岡町生活復興支援センター（郡山市）、原子力災害現地対策本部（福島市）を視察。

3月23日……新潟県原子力防災訓練の参加及び視察。

経緯【第5期】

年月日	会議・視察名	内容
平成24年 5月 9日 (2012)	第107回定例会	・SPEEDIについて勉強会 講師：木曾芳広氏 ・気象、津波ハザードについて（県、市）、意見要望
6月 6日	第108回定例会	特別総合事業計画の概要について（東京電力）、「福島第一原子力発電所による原子力災害被災自治体等調査結果」の概要について（市）
7月 4日	第109回定例会	「新潟県地域防災計画（原子力災害対策編）」修正案について（県）、前回議事についての質問・意見、福島原子力事故調査報告書について（東京電力）
7月18日	福島視察研修	富岡町生活ボランティアセンター視察（郡山市）、原子力災害現地対策本部視察（福島市）
8月 1日	第110回定例会	視察研修の報告、感想（委員）、事故調報告書（国会、政府、東京電力）について意見交換
8月23日	技術コミュニケーションに関する教育内容検討会（長岡技科大）	長岡技術科学大学学生及び長岡高専学生と地域の会とのグループ討議 会長及び運営委員が出席
9月 5日	第111回定例会	4事故調報告書の論点について意見交換
10月 3日	第112回定例会	原子力規制庁について説明（規制庁）、革新的エネルギー・環境戦略について（エネ庁）
10月17日	発電所視察	6号機水密扉、貫通口、防潮堤、貯水池、ポーリング調査状況等視察
11月 7日	第113回定例会	防災計画の見直しについての動き（県、市、村）、今夏の電力需給及び過去の推移（エネ庁）、今夏の電力需給実績及び過去の推移（東京電力）
12月 5日	第114回定例会	使用済核燃料の保管状況、今後の見通し（東京電力）、全国の原子力発電所の使用済核燃料の保管状況、全体の見通し（エネ庁）、「市町村による原子力安全確保に関する研究会」の経緯と概要について（市）
平成25年 1月 9日 (2013)	第115回定例会	委員所感表明、原子力防災対策について意見交換
2月 6日	第116回定例会 (情報共有会議)	委員所感表明（今、一番思うことや伝えたいことなど） オブザーバー所感表明（委員所感表明を踏まえての意見や感想）
3月 6日	第117回定例会	新安全基準の骨子案について（規制庁）、原子力防災訓練の概要（県）
3月23日	原子力防災訓練 視察	新潟県原子力防災訓練を視察（オフサイトセンター、柏崎市役所4階防災対策本部、松波コミュニティセンター） (地域の訓練への参加者5名)
4月10日	第118回定例会	防災計画の大きな変更点及び原子力防災訓練の所感（オブザーバー、委員）

発電所を巡る動き

- 2012/6/20 東京電力、福島原子力事故調査報告書の公表
- 2012/9/19 原子力規制委員会 発足
- 2013/1/ 1 東京電力、「福島復興本社」を設立
- 2013/3/23 新潟県、原子力防災訓練を実施



24.5.9 第107回定例会



24.5.10 視点54号編集会議



24.7.18 福島視察研修



24.10.17 発電所視察



25.1.23 第123回運営委員会



25.2.6 第116回定例会（情報共有会議）

議事録や経緯の詳細は「地域の会」ホームページをご覧ください。  
<http://www.tiikinokai.jp>

## 委員より ひとこと

## これまで一番印象に残っていること

### 浅賀 千穂

初会合からの一年間の定例会は、「推進」「反対」の言葉のやりとりに終始し、この会の意義を悩み、専門用語にもついていけず苦労したものです。又、何よりマスコミの方々に違和感を覚え、マイクを向けられる苦痛もありました。

任期を経る度に、新しい事象が起き 10 年になりますが、専門用語も多く理解するのに相変わらず苦勞、難儀しています。

### 新野 良子

地域の会誕生前から、住民の合意とはどこでとっているのか疑問でした。会への参加は多様な方々との議論場ということが魅力であり、迷わず参加。必ず何かができると信じ続けてここまで来てしまいました。

### 石坂 泰男

私が当会委員に就任する直前の 2011 年 3 月、あの事故発生時の事を忘れることができない。福島は、柏崎はどうなるのか?これから参加する地域の会ではどんな議論が交わされ、その中で自分は何を成すべきか?様々な想いが心の中に渦巻いていた。

### 川口 寛

「第1回定例会スタートで」

第1回定例会スタートで、反対派の方から、「会場が、推進団体である商工会議所でやるのは、けしからん」と発言があった。これを聞いて、この会は、半年くらいしか持たないのではと思った。

### 桑原 保芳

「第125回公開勉強会に参加して」

誤解や間違いは対話の中で理解されると思うが、立ち位置の違う人との話し合いによる一致はないと感じる。

法律、規則で決定される手続を無視した超法規的な原発の停止要請は国民がどう感じているのか。原発を論じる中で法律とは何なのか今一度考える必要がある。

### 佐藤 正幸

当初、原発に賛成反対の者が向かい合って議論するなど考えられないと思ったので戸惑った。こんなに長く地域の会が続くとは夢にも思わなかった。3つの大震災と原発のほころびが「会」の皆の絆を強くしたのかも知れない。

### 三宮 政邦

委員となり、1年後の7月16日中越沖地震が発生した。

その後ほぼ毎定例会で地質・建屋設備の耐震性について議論し安全性には納得できたが、津波に考えが及ばなかったことが今思うと残念です。

### 高桑 千恵

H24.7.18 福島視察研修 おだがいさまセンターで富岡町災害復興支援を担っている方々の話「地震・余震・原発に追い立てられ役場も職場もバラバラになった」「避難先は仮設 12ヶ所、県外にも」「人としての尊厳と希望を持てる取り組みが必要」

### 高橋 武

3期入会。その入会当初に中越沖地震が発生し、議論の熱はさらにヒートアップ。当時なかなか議論に入り込めなかった私。そんな今では副会長。若輩者ですが地域の安全安心のために、これからも活動していきたい。

### 高橋 優一

東電福島原発の大事故。世界に影響を与えた、降ってわいた災難以外の何物でもない。人命を危険にさらし、環境を汚染しなくても電気は作れることを世界に示すまたとない機会になっている。原発ゼロ社会の実現可能性が見えてきた。この原発事故の悲劇から少なくとも一つくらい良い成果を未来に残そうではないか。

### 竹内 一公

私にとって初の出席となった第95回定例会ですね。「ただ、いれば良い」と前任者から預かった席ですが、直前に東日本大震災が起こり責任の重さを感じながらも、委員の皆さまの気迫に圧倒されました。日本のエネルギーについて深く考えるきっかけとなりました。

### 武本 和幸

「悔やまれる福島原発事故」

東電不正隠し事件発覚を契機にスタートした地域の会は、原発大事故防止のための組織。以来、東電や国と毎月繰返し議論してきたが、力及ばず福島事故を起こしてしまった。自責の念に駆られる日々を送っています。

### 武本 昌之

やはり、事故後の福島第一原子力発電所の視察である。各種対策の真最中にも関わらず視察が叶った事、さらには免震重要棟の対策本部で会の代表である新野会長が挨拶する機会を与えて頂いた事は驚愕の至りであった。

### 千原 健二

震災後、福島第一原発二年半の現状を視察した。免震棟では 80 名近い社員が全員起立して我々の挨拶を聞いてくれた。

現場で働く人を見たら、視察前に聞いている世間の声で、東電社員に対し何を言っても許されるとは決して思わない。

どれほどの激励もできなかったが深く感じて来た。

### 徳永 久行

「いきなり喧々囂々・侃々諤々」

最初から戸惑うばかり。それもそのはず、私が初めて出席したのは、平成23年5月11日の定例会です。つまり「3.11福島第一原発事故」直後のため、議論百出の最中で『これは今後大変な会合になるな』と予感しました。

### 内藤 利成

福島第一原発の汚染水漏れで、ロンドン条約に違反しているのではと質問した事。ペント設備は、住民を避難させてから、設備を始動する手順だ、という話を東電担当から聞いた時、飯舘村やロングラップ島の人達のようになると思った。二度と柏崎へは戻って来れないと思った。

### 中原 節子

半年が過ぎましたが、定例会ではまだまだ緊張感がありますが前向きにと思っています。

福島視察では、故郷の現状を目の当たりにして複雑な思いはありますが、廃炉に向けて前進しています。正しい情報を発信し続けて下さい。

### 前田 弘実

最初に参加したとき皆の原発への声を荒げた非難に度肝を抜かれました。あやふやな自分を振り返り気を引き締めました。反対・推進の議論は毎回平行線。しかし今は、原発の事を自然に会話をしています。きっかけは六ヶ所村への研修だと思えます。

### 吉野 信哉

地震による柏崎刈羽原発の損傷や放射能放出には大きなショックを受けた。地域の会での議論や勉強会で地震列島日本での原発運転はムリだと思った。核のゴミの処分場も地形が絶えず変動し地下水が豊富な日本ではムリ。莫大な費用がかかる永久管理しかないと思った。

### 渡辺 直人

会に参加して、メンバーの皆さんの一生懸命さと知識の高さに圧倒されました。自分も、もっと勉強しなければと思いました。もっと原子力発電所に対して、関心を持たなければいけないと思いました。



## 「仮称：柏崎刈羽原子力発電所の安全運転を確保する地域の会」設置に向けての基本的な考え方

平成14年12月19日  
新潟県、柏崎市、刈羽村、西山町

### 1. 趣旨

本年8月、東京電力(株)による自主点検作業記録不正事件が明らかとなり、地域住民の安全・安心の一つの拠り所であった発電事業者に対する信頼が著しく損なわれたことはもとより、国の規制のあり方や立地自治体の発電所監視体制についても大きな波紋を投げかける結果となった。

このような事態を受け、事業者はもとより国、自治体においても再発防止策が検討されているところである。

とりわけ、原子力発電の安全性については国が一元的に責任を持つべきものであり、原子力に対する信頼の最後の拠り所は、事業活動を規制・指導する国への信頼に他ならず、これを立て直すこと抜きには信頼の回復は有り得ないものであるにもかかわらず、先般発表された対策の中間発表では必ずしも十全とはいえず、関係自治体として、原子力安全規制体制の更なる強化を要請していく必要がある。

そもそも、このような事案が生じた背景には、いくつかの要因が挙げられるが、特に原子力の閉鎖性・不透明性が未然防止・早期発見の妨げになったことが強く指摘されることである。したがって、立地地域としては再発防止のために発電所の透明性確保に力点を置くという観点から、国とは異なる視点で補完的に「監視」を行うことが必要であり、専門家の助言を得ながら監視体制の強化を図るとともに、国、事業者に対し「情報の公開」を強く求めていくことが必要であると考えられる。

### 2. 「仮称：安全運転を確保する地域の会」

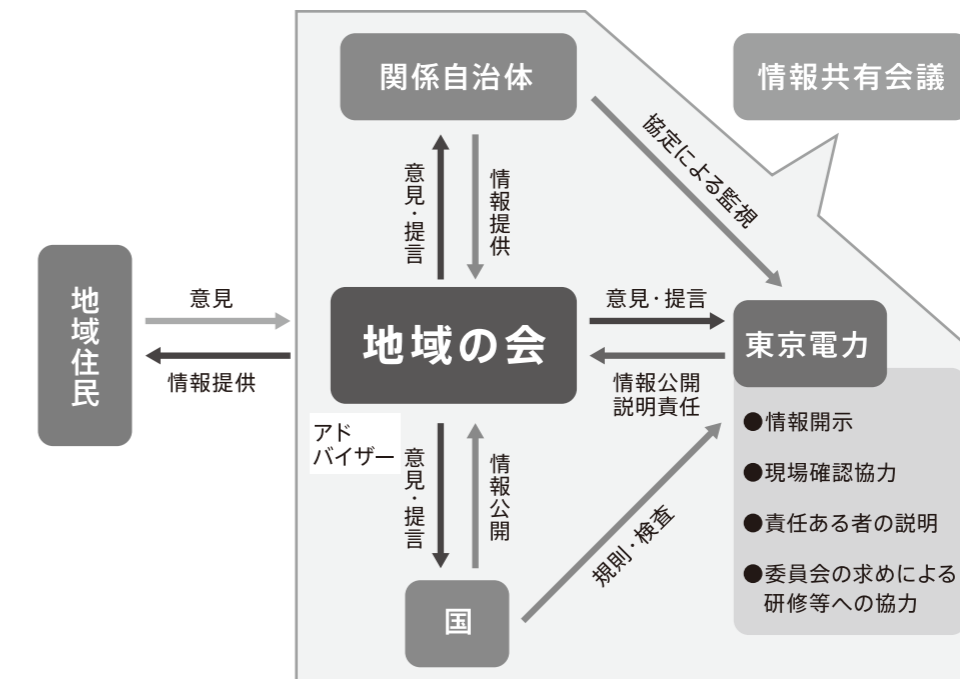
その具体的方策として、立地地域の多様な代表メンバーの参画のもとに、第三者的機関「仮称：柏崎刈羽原子力発電所の安全運転を確保する地域の会」(以下「地域の会」という)を設置し、立地地域住民の視点・立場から原子力発電所の安全性確保に関する事業者の取り組みや国の規制・検査、関係自治体の監視活動等を確認するとともに、指摘・要望等を行い、かつ、その結果や得た情報を地域住民に分かり易く客観的に提供することとする。

この場合、特に事業者はこの委員会の活動に積極的に協力し、必要な情報公開のもとに納得の得られる報告・説明を行うことが不可欠であり、その点は事業者との申し合わせにより明確化することとする。また、国に対しても本委員会に積極的に協力するよう強く要請していくこととする。

### 3. 柏崎刈羽原子力発電所情報共有会議(仮称)

また、本委員会の活動を集約する場として、国、関係自治体、事業者が一堂に会した中で、説明を受け・意見・要望を行う(情報共有会議)を定期に開催することとする。

(仮称) 地域の会&情報共有会議イメージ



#### 「地域の会」と「情報共有会議」について

- 「地域の会」は住民代表のみによる集まりであり、<sup>\*</sup>年〇回程度定期的に開催し、事業者から情報を得、意見交換等を行うほか、臨時的あるいは随時に、自主的に会合等を持つことができることとする。  
なお、<sup>\*</sup>年〇回程度の定例会は、事業者、(国)、関係自治体、も含めて「情報共有会議」とする。
- 「情報共有会議」は「地域の会」に事業者、(国)、関係自治体を加え、「地域の会」とこれら団体の情報提供・収集、意見交換等の場とし、<sup>\*</sup>年〇回程度開催する。
- いずれも事務局は柏崎原子力広報センターを考えている。

※〇の箇所は、この時点では未定だった。

### 4. 地域の会準備会

本委員会の設置にあたっては、「住民参加」の観点から地域の各種団体からメンバーを募り「準備会」を立ち上げ、地域の会の具体的な構成、活動内容、基本ルール等を準備会メンバーのフリーハンドの議論により構築するものとする。

提  
言

地域の会として提出した意見、提言等

1. 平成 15 年 12 月 14 日提出（原子力安全・保安院、東京電力(株)に対して）  
「原子炉圧力抑制室内の異物問題に対する意見のまとめ」  
「不正問題の再発防止策への取り組みはまだ道半ばの感がある。システムの構築・整備だけではなく、企業体質、社員一人一人の倫理や意識を改革し、再発防止に努めるべきである。」と12月定例会の意見の取りまとめを提出。
2. 平成 16 年 6 月 2 日提出（原子力安全・保安院長・柏崎刈羽原子力保安検査官事務所  
長、東京電力(株)代表取締役社長・柏崎刈羽原子力発電所長に対して）  
「1年間を総括しての提言」  
発電所で働く全ての人々が、地域に信頼される発電所を目指して体質改善を継続することと、その取り組みの進捗状況を定期的に地域住民に説明をすることを求めた。
3. 平成 17 年 4 月 12 日提出（原子力安全・保安院長、新潟県知事、柏崎市長、刈羽村長、  
東京電力(株)代表取締役社長に対して）  
「二年間を振り返って」  
これからは国も事業者も自治体も国民も、他に任せきりにするのではなく、それぞれの立場で情報を得て考え、判断することが求められてきている。事業者も自治体も国民からの信頼を取り戻すべく、迅速で的を射、理解しやすい、より積極的な説明責任を果たしていただきたい。
4. 平成 17 年 8 月 26 日提出（内閣府原子力委員会に対して）  
「原子力政策大綱(案)に対する意見書 検討書」  
国民の目線から、もっと理解され、熱意の伝わる見直しや、数値目標、責任の所在等が、明記されることを望む。
5. 平成 18 年 2 月 1 日提出（原子力安全・保安院長・柏崎刈羽原子力保安検査官事務所  
長、新潟県知事・副危機管理監兼県民生活・環境部防災局長、柏崎市長、刈羽村長、東  
京電力(株)代表取締役社長・柏崎刈羽原子力発電所長に対して）  
「原子力総合防災訓練を視察して」  
数年来、地震・水害・雪害・停電と、大規模かつ深刻な災害が頻発していること踏まえて、意見・感想・要望を提出。
6. 平成 18 年 3 月 1 日提出（新潟県知事に対して）  
「新潟県国民保護計画(素案)」に対する意見  
国民保護計画と同時に、他の原子力発電所立地自治体とともに国に対し、原子力発電所の武力攻撃事  
態の回避に向けた不断の外交努力を継続的に求めていただきたい。
7. 平成 18 年 6 月 22 日提出（内閣府原子力安全委員会に対して）  
「発電用原子炉施設に関する耐震設計指針(案)」及び「原子力安全基準・指針専門部会  
の見解」に対する意見  
指針の見直しは、今後とも不断の姿勢を望む。適用例外規定は設定しない。残余のリスクについて地  
元への説明責任と継続的な検討を望む。余震に伴う影響を追加されたい。

8. 平成 18 年 12 月 6 日提出（柏崎市長に対して）  
「要望書」(原子力の課名復活)  
柏崎市の課名変更に伴い、原子力担当課の課名に「原子力」が消えたのに対し、地域住民としては、  
安全安心の観点からも「原子力」の看板を掲げる部署の存在意義は大きい。
9. 平成 19 年 5 月 9 日提出（経済産業大臣、東京電力(株)代表取締役社長に対して）  
「要望書」(検査データ改ざんに係わる東電公表を受けて)  
公表を機に、不正を起こした背景を十分に分析し、場合によっては、国・県・市・村・東京電力と協議し、  
その経過を含めた、実効性ある対策を求める。
10. 平成 19 年 12 月 13 日提出（原子力委員長、原子力安全委員長、経済産業大臣、原子力安  
全・保安院長、資源エネルギー庁長官、東京電力(株)代表取締役社長、新潟県知事、柏崎  
市長、刈羽村長に対して）  
「03年海底活断層再評価の公表を受けての意見書」  
原子力安全委員会、原子力安全・保安院、東京電力は、それぞれの立場で地域住民、国民に対し、説  
明責任を果たすよう強く望む。  
新潟県、柏崎市、刈羽村には、当事者である原子力安全委員会、原子力安全・保安院、東京電力の責  
任と今後の根本的対策を明確にするよう強く求める。
11. 平成 22 年 2 月 26 日提出（資源エネルギー庁長官に対して）  
「エネルギー基本計画」について  
新しい政策や方針に向かうとき、これから何を指すのか、なぜこの道を行くのかなど、その経緯や課  
題もしくは情報公開できない理由などに関する情報も国民と共有することが望まれる。  
審議会のあり方、土台を作るデータや数値等が、国民からみて公平・平等なものであるか、実態に即し  
たものか等、情報の透明性を高める。  
安全は、安全規制機関ばかりでなく推進機関にあっても、より踏み込んだ姿勢が示されること、現場の  
状況を熟知されることを望む。そして基本方針が実務者へと読み込まれ、国民や住民にも響く見直しになっ  
てほしい。
12. 平成 23 年 3 月 24 日提出（内閣総理大臣、経済産業大臣、衆議院議長、参議院議長、原  
子力委員長、原子力安全委員長、資源エネルギー庁長官、原子力安全・保安院長、新潟  
県知事、柏崎市長、刈羽村長、東京電力(株)代表取締役社長に対して）  
意見書前文及び「意見書」(東北地方太平洋沖地震を受けて)  
1 事故の終息に向け、関係者は全力を尽くしてください。  
2 有事に情報と対策の一元化のため設置されたオフサイトセンターの一刻も早い機能回復を望みます。  
3 正確な情報を迅速に公開すること、その際には経過も含めた丁寧な解説とその根拠、時には先の見直し  
を示すことが重要。  
4 関係機関が、しっかり連携を取ることが必要不可欠。  
5 原子力発電所設置の基本的な考え方、自然災害に対する想定と対策の見直しが必要となる。これから  
は国民とも情報を共有し、困難があろうと互いに合意し納得し合いながら施策が進められることが不可欠。
13. 平成 24 年 1 月 25 日提出（経済産業大臣、内閣府特命担当大臣(原子力行政)、原子力安  
全・保安院長、原子力安全委員長、原子力委員長、資源エネルギー庁長官に対して）  
「要望書提出にあたって」及び「原子力発電所の安全・防災対策について」(要望)  
原子力安全対策等の施策は、企画検討、その実施に当たっては、発電所立地地域住民の意見や要望を  
受け止め反映させる。原子力発電所の安全対策は、国民に分かりやすい言葉を用いて説明し、理解を求める。

# 委員名簿 及び任期

1期 H15-H17	2期 H17-H19	3期 H19-H21	4期 H21-H23	5期 H23-H25	任期 順	6期(現在) H25-H27
今井 長司					1	
柴野 健蔵					2	
川口 寛					3	川口 寛
金子 彰夫			(途中まで)		4	
内藤 信寛					5	
阿部 尚義					6	
新野 良子					7	新野 良子
田辺 忠弘					8	
佐藤 正幸					9	佐藤 正幸
宮崎 孝司					10	
中村 節子					11	
吉田 巖					12	
本間 保					13	
浅賀 千穂					14	浅賀 千穂
渡辺 洋一					15	
渡辺 五四六					16	
小山 進					17	
丸山 将孝					18	
武本 和幸					19	武本 和幸
中沢 洋一					20	
渡辺 丈夫			(途中まで)		21	
高橋 保司					22	
牧 豊					23	
伊比 隆					24	
	阿部 正光				25	
	石田 ヨシ子				26	
	久我 重雄				27	
	杉浦 平八郎				28	
	千原 健二		(途中まで)		29	
	前田 弘実				30	前田 弘実
	吉野 信哉				31	吉野 信哉
	渡辺 仁				32	
	元井 浩保				33	
	三宮 政邦				34	三宮 政邦
	伊比 智				35	
	井比 加代子				36	
		高橋 武			37	高橋 武
		池田 知明 (途中から)			38	
		宮島 洋一			39	
		高橋 優一			40	高橋 優一
		加藤 サエ子			41	
		中川 一			42	
		種岡 和也			43	
		相沢 藤男			44	
		伊藤 五也			45	
		牧 藤一			46	
		上村 美佐子			47	
			天野 巖		48	
			三井田 徳之助 (途中から)		49	
			関口 美智子		50	
			高橋 義範		51	
			鬼山 應人		52	
			萩野 武夫		53	
			滝沢 茂義 (途中から)		54	
				佐藤 幸子	55	
				竹内 一公	56	竹内 一公
				武本 昌之	57	武本 昌之
				茂田井 信彦 (途中まで)	58	
				大島 正忠 (途中から)	59	
				桑原 保芳	60	桑原 保芳
				石坂 泰男	61	石坂 泰男
				渡辺 芳樹	62	
				高桑 千恵	63	高桑 千恵
				佐藤 直弘	64	
				田中 貞子	65	
				徳永 久行	66	徳永 久行
					67	千原 健二
					68	中原 節子
					69	渡辺 直人
					70	内藤 利成

順不同

# 会 則 「柏崎刈羽原子力発電所の透明性を確保する地域の会」会則

## 【目的】

第1条 柏崎刈羽原子力発電所の透明性を確保する地域の会（以下「会」という。）は、柏崎刈羽原子力発電所立地地域の住民の参画により、発電所の安全性・透明性確保に関する事業者の取り組み、並びに国及び関係自治体の活動状況等を、継続して確認・監視し、提言等を行うことにより、発電所の安全を確保することを目的とします。

- 委員は、会を通じて、事業者等に資料開示、情報提供、現場確認等を求めることができます。この場合、委員の情報共有のために、その活動内容を会に報告するものとします。
- 委員は、会の活動の中で事業者等の非開示情報を見聞した場合は、その内容を守秘するものとします。

## 【委員】

第2条 会は柏崎市、刈羽村に在住し、会が認める各種団体の推薦を受けた25名以内の委員をもって構成します。

- 委員の任期は2年とします。
- 委員は再任されることができるとします。
- 委員は、事故その他やむを得ない理由があるときは辞任することができるものとします。
- 委員に欠員がある場合は、補充できるものとします。この場合、補充された委員の任期は他の委員の残任期間と同じにします。

## 【事業者等の協力】

第6条 事業者等は、会の目的を理解して積極的な情報開示に努めるとともに、会への説明は、委員に分かりやすいよう工夫するものとします。

- 事業者等は、会における委員の意見・提言を十分尊重するものとします。

## 【会の公開】

第7条 会は、全て公開で行います。ただし、委員の合意により公開しないことができるものとします。

## 【会長及び副会長】

第8条 会に会長及び副会長を置きます。

- 会長及び副会長は、委員により互選します。
- 会長は、会に関する事務を総理します。
- 副会長は、会長に事故あるとき、その職務を代理します。

## 【運営委員会】

第9条 会に運営委員会を置きます。

- 運営委員会は、会長、副会長及び会長が指名した若干名の運営委員で構成します。
- 運営委員会は、会長または会の諮問事項の審議、会の運営を円滑に遂行するための提言及び会が発行する情報誌の企画、編集を行うものとします。

## 【会議】

第10条 会議は定例会及び臨時会とします。

- 定例会は、原則として毎月1回招集します。
- 定例会のうち年1回以上は、事業者等も出席する会議（「発電所情報共有会議」という。）とします。
- 臨時会は、5分の1以上の会員の呼びかけ、又は事務局の求めに応じ、会長が必要と認めるときこれを招集します。
- 会議の議長は、会長が務めることとします。会長が出席できないとき、又は会長の指示あるときは、副会長、又は会長があらかじめ指名した者が議長にあたるものとします。

## 【事務局】

第11条 会の事務局は、柏崎原子力広報センターが行うものとします。

- 関係自治体は、事務局を補佐するものとします。

## 【オブザーバー等】

第3条 会はオブザーバー、又は説明者として次の者（以下「事業者等」という。）を会議に出席させることができるものとします。

- 東京電力株
- 新潟県、柏崎市、刈羽村
- 経済産業省
- 原子力規制委員会
- その他会が必要と認めたる者

2. 会は、必要に応じアドバイザーを出席させることができるものとします。

## 【任務】

第4条 会は次の事項を行います。

- 原子力発電所の運転状況及び影響等の確認・監視
- 事業者等への提言
- 会での議論、活動等の住民への情報提供
- 委員の研修
- その他会の目的を達成するために必要と認められる事項

## 【会及び委員の権利と責務】

第5条 委員は、会において、自由に意見を陳述することができます。

- 委員は、互いの意見を尊重するとともに、自らの意見等には責任を持つものとします。
- 会は、事業者等に発電所の安全確保に係る提言をすることができます。
- 会は、国の責任・権限に係る事項及び法令の規定を超える事項について、これらを超えて事業者等を拘束する要求はしないものとします。

委員推薦団体（これまでの推薦団体含む）	
荒浜21フォーラム	刈羽村商工会
柏崎エネルギーフォーラム	協同組合ニューエネルギーリサーチ
柏崎刈羽原発反対地元三団体	くらしをみつめる・・・柏桃の輪
柏崎市	原発反対刈羽村を守る会
柏崎市（旧 西山町分）	原発問題を考える柏崎刈羽地域連絡センター
柏崎市コミュニティ推進協議会	原発問題を考える刈羽西山住民の会
柏崎商工会議所	国際ソロプチミスト柏崎
柏崎青年会議所	高浜地区町内会
かしわざき男女共同参画推進市民会議	ブルサマーを考える医療者の会
柏崎農業協同組合	ブルサマーを考える柏崎刈羽市民ネットワーク
刈羽エネルギー懇談会	松浜地区町内会
刈羽村区長連絡協議会	連合新潟・柏崎地域協議会

五十音順



## 編集後記

この会が始まった時、1年くらいで終わりになるのではと思っていました。原子力発電所の推進と反対の考えの人がいくら話しても、どうしようもないのではという思いがありました。思った通り最初の頃は会に出るのが、苦痛でした。

それが、会を重ね、また一緒に視察に行くことにより、少しずつ相手の言うこと、その背景の思いがわかるようになり、会話ができるようになってきました。もちろん、考え方は違うので同意はできないが、思いは解るようになって来たのかなと思います。お互いに相手の話を聞くという姿勢が、会が成り立ち続けることが出来たのではと思います。

10年間、また、また、と思うほど、原子力発電所においていろいろなことが起きました。定例会も落ち着いたなら、ひと月おき位にという考えもありましたが、毎月やらなければ、事象についていけない状態でありました。それでも、出席率も良く、皆さん一生懸命、会を重ねてきました。この会が、より多くの方々から、認識され理解されることを願います。

( 編集委員 川口 寛 )



---

2014年2月発行

発行元 柏崎刈羽原子力発電所の透明性を確保する地域の会

編集委員 川口 寛 前田弘実

運営委員 新野良子 石坂泰男 佐藤正幸 三宮政邦  
高橋 武 竹内一公 武本和幸 徳永久行

事務局 公益財団法人柏崎原子力広報センター  
「柏崎刈羽原子力発電所の透明性を確保する地域の会」事務局)

〒945-0017  
新潟県柏崎市荒浜1-3-32  
TEL 0257-22-1896  
FAX 0257-32-3228  
<http://www.tiikinokai.jp>  
MAIL [info@tiikinokai.jp](mailto:info@tiikinokai.jp)

製 作 (株)不二美術印刷



中越沖地震後の公開勉強会